

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ボーイズ&ガールズ(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(保育士・看護師・理学療法士)を配置 配置数も十分であるため行き届いた支援ができる。	各職種の職員が専門分野での役割を担いながら 一人一人のこどもに合わせた総合的な支援が できるよう連携を取り協力している。	一人一人の個性を大切にしながらデイの仲間と 過ごす時間が充実したものになるよう集団活動の内容を 工夫していく。
2	保育所等や他事業所と連携を図り こどもの状態の把握と適切な対応を行っている。	迎え際にはしっかり申し送りを聞き、 またMCSを活用して主治医や他事業所とも 連絡を取り合っている。	学校見学だけでなく他事業所での様子など 見学させて頂く機会があれば活用していく。
3	内部研修だけでなく外部研修や連絡会・担当者会議で得た 情報や知識をパート職員も含めた全職員で共有し、 支援に活かしている。	外部研修の案内等があった時は掲示または回覧にて 職員に知らせている。	情報共有だけで終わることがないように ミーティングで話し合いをし、支援に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の交流ができていない。	児童全員が数か所の事業所を利用していることや 就労している保護者も多いため 保護者会等を希望される方がいない。	なるべく保護者の負担にならない範囲で できる交流はないか検討していく。
2	地域のこどもたちと接する機会が少ない。	入浴や医療的なケアが必要なため 地域との交流は難しい。 また、コロナ禍以降ボランティアさんが減ってしまった ことも大きな要因である。	こどもたちが外に出るのは難しいが、ボランティアさんの 募集をして外部の方の訪問を増やしていく。
3	家族支援(ペアレント・トレーニング等)が 十分にできていない。	保護者向けの研修等があれば案内しているが 重度心身障害児向けの研修が少ない。	保護者への案内だけでなく職員対象の研修にも 積極的に参加していく。